

時 報

鶏のロイコチトゾン病研究普及会の 新年度事業計画さまる

岡山県ロイコチトゾン病研究普及会では、3月26日、県庁で岡山大学・県養鶏試験場・県畜産課ほかの関係者が参集して、昭和38年度の事業実施方針や計画について協議し、事業実施項目等を決めた。

鶏のロイコチトゾン病は29年農林省家畜衛生試験場の秋葉博士によって我国ではじめて発見され、以後全国的にかなりの被害を受けていることが判ってきたが、まだ中間宿主のニワトリヌカカの発生や病原体の感染、治療法等に不明の点が多いので、農林省家衛試を中心に、全国的に青森・群馬・静岡・岐阜・岡山・宮崎の6県を選んで各方面から総合的な調査を行なうことになっている。

岡山県ロイコチトゾン病普及研究会は36年7月県畜産課が中心になって結成され、病原体や中間宿主、治療法等の調査研究を行なってきたが、前年度に続いて新年度も、岡山大学・県養鶏試験場のほか、家畜保健衛生所、農業高校等が協力分担して県下一円 で調査および試験を実施することにしている。

38年度の事業実施内容概略はつぎのとおりである。

1、ロイコチトゾン病発生状況調査

調査項目＝初発の時期、気温・ヌカカの消長等、中間宿主のヌカカとの関係を中心に調査をすすめる。
(畜産課岡大、養鶏試、高校)

2、予防試験

ダラプリン・サルファ剤・アテブリン（マラリヤ剤）、等の薬剤による成鶏、ひなに対する予防試験を行なう。（岡大、養鶏試）

3、ニワトリヌカカの発生活消長調査

ライトトラップによる採取および虫取カバー付き裸電球による採取調査を行なう。

調査時期は年間を通じて行なうが、とくに4月～

12月を重点的に実施する。なかでも初発生及び最終発生時期を綿密に調査し、また農薬との関係についても調べる。（県畜産課、岡大、養鶏試、衛生所、高校）

4、治療試験

できれば今年度実施するが、多くは今後の研究にまつ。（岡大）

5、ニワトリヌカカの忌避試験

殺虫剤・忌避剤による試験、とくに一般養鶏家に実用化できる忌避剤の究明に力を入れるほか、電球の色による比較試養を行なう。（県畜産課、養鶏試、岡大）

6、その他

ケージ飼育と平飼いにおける本病発生の差、鶏種による発生の差、免疫試験等も併せて研究する。（養鶏試、大学・その他）